

研修の基本は自主性です！

私たちは、官制研修の押しつけに反対です。

愛高教は03年、10年経験者研修の実施にあたり、02年12月の県教委交渉において、次のことを確認しています。

校長による事前評価は本人の自己評価を尊重する。事前評価の結果を本人に開示する。

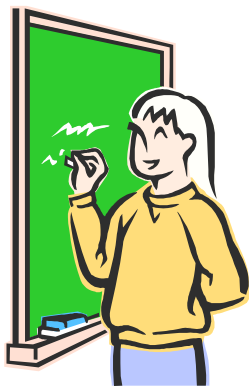
校内研修の計画、校外研修の選択、特定課題研究など本人の希望に添ったものとする。

校内研修は、本人と学校の教育活動に寄与するものに工夫する。本人の過重負担と学校運営上の支障にならないように配慮する。

研修結果を勤務評定に連動させない。

以上のことは、10年経験者研修の要項等に反映されています。

差別研修ではなくアラカルト選択方式に 校務分掌、行事計画等において十分配慮



文科省のねらいは、評価結果を研修内容に反映した差別的な研修制度の導入で、研修日数も校外校内併せて40日に及ぶものでしたが、愛知県では、センター研修は選択方式が取り入れられ、校内研も本人が自ら計画書を作成することとなり、研修日数も校外16日、校内15日から20日としました。

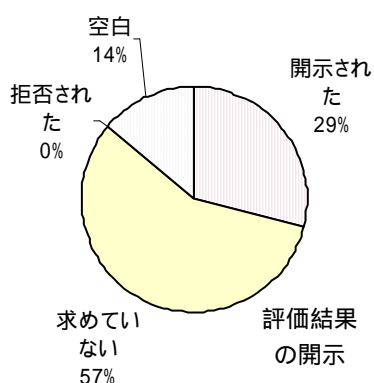
さらに私たちは、10年研が新任研と違い非常勤時間が措置されない制度となっていることに対して「ほんとにこれで研修ができるのか」「教育活動への支障が出るのではないか」などと強く指摘しました。

これに対して県教委は、要項に「任命権者および校長が授業等の校務に支障のないよう、また、研修の時間を充分とることができるよう、人事異動や各学校における校務分掌、行事計画等において十分配慮を行うこと」と一文をいれ、その後の折衝でも該当者が3名以上3年生の担任になってしまった場合、実施年度ですらするなどして配慮する、該当者を欠くことのできない学校行事では、校長と協議して配慮するなど確認しました。

しかし、実際にどうなっているのかについては、昨年度の実施アンケートからは悲鳴に近い声が上げられているし、今、該当者の皆さんが実感してみえる通りです。

11年目のリフレッシュならず 地獄が待っていた？

愛高教は、昨年度該当者の皆さんに2回に渡ってアンケートを実施しました。第1回は7月、第2回は2月でした。

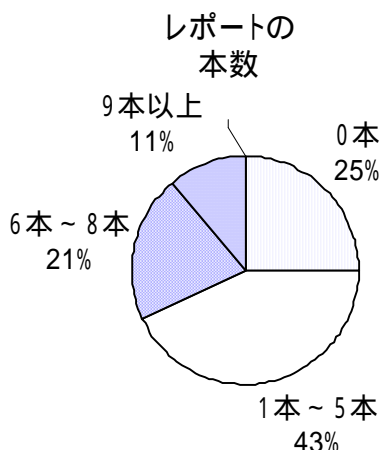


評価結果の開示をもとめよう！

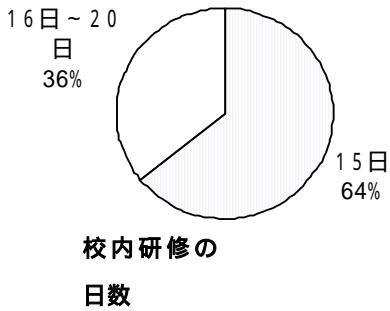
評価結果の開示を拒否された例はありません。しかし、評価結果を求めている人が半数を超えています。評価結果は県教委に報告されるのですから、きちんと校長さんに聞くべきです。自分がどの程度評価されているかを開示を求めることは、今後の教育活動に欠かせません。気軽に聞いてみましょう。

講座ごとにレポートの本数が バラバラ

コースや教科の違いで提出レポートの本数に予想以上の違いがあることがわかりました。中には、9本以上の場合もあり、「明らかにオーバーワークになってしまう」と声が上がっています。



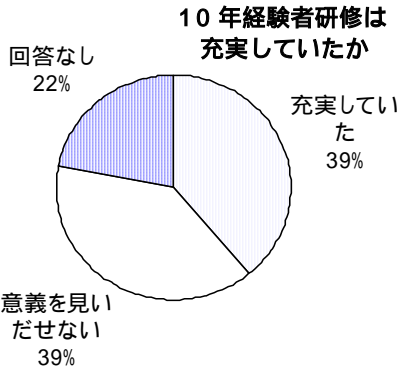
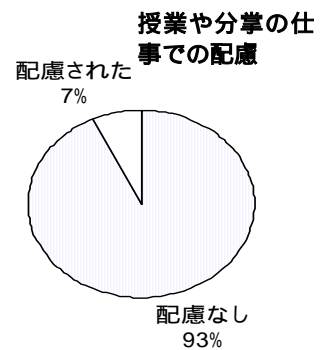
校内研修の日数では それなりの配慮



3分の2に近い学校では、最低限の15日となりました。「保障もなしにまるまるできない」とする県教委の「配慮」が反映しています。それでも「皆忙しく日程が合わない」など現場では、受ける側も担当する側も大変な実状が出ています。

「十分配慮」は建前なの？

「講師時間があるわけでもないから他の先生には無理は言えない」などの声が象徴するように職場での配慮はとても難しいようです。県教委の配慮も職場任せではなかなかすまない実態があります。



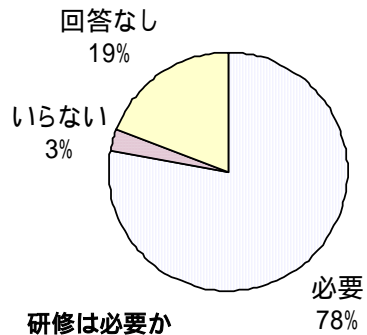
評価は二極分化

それでも39%が「よかった」！？

39%が10年研が「充実していた」としました。しかし同じく39%の人が「意義を見いだせない」としていています。評価は二極分化しています。

教員は研修を求めている

それは「研修は必要か」という問に約8割が「必要」としているところに答えを探すことができます。「あまりの忙しさに教材研究も満足にできない」「とにかく研修がしたい」という悲鳴の反映ではないでしょうか。



それは、以下のアンケート結果にも表れています。

センター研修では、「講義ばかりでは飽きる」、「新任研と変わらない」という意見の反面、実践の裏打ちのある具体的な講演には「新鮮な興味をかき立てられた」という意見も出ています。**異校種体験**では、「用意されたものなく普段のままを見せて欲しい」、「同じ教科の授業が見たかった」に対して、「指導内容の大胆さに驚いた」、「工夫・情熱に頭が下がる」などの感想も出ています。**社会体験**では、「研修先を探すのが大変な負担」としつつも、「授業で体験談が話せる」、「見識・視野が広がった」など74%が「意義あり」としました。**課題研究**は、「時間的精神的ゆとりがな」く、65%が「やっつけ仕事に終わってしまった」としています。「これだけの研修を行うならそれなりの配慮を真剣に考えて欲しい」という意見は大切です。**校内研修**への批判が大きいのも特徴です。10年経験者にふさわしい研修内容とスタイルになっていないことへの不満がたくさんでていました。

39%が「意義を見いだせない」は大問題 自主的主体的な研修こそ求められている

いま、私たちは、教育現場で6日分授業と会議を詰め込む週5日制と、空いた1日を土曜補習・部活動でうめるプラスワンで青息吐息になっています。そこに何の保障もなしの10年研では理不尽です。中身の工夫が必要です。どうせやるなら11年目を充電の年ときちんと位置づけ、研修に専念できるものにして欲しい。当面、可能な限りの内容と日数の精選と言葉に終わらない配慮、主体的に参加できる条件作りが求められています。



<ご意見をお寄せください>

愛高教 : Fax 052-261-8158 Mail aikoukyo@lilac.con.ne.jp